

平成 24 年 8 月 2 日

## 京都市中央斎場あり方検討委員会資料

### 1 目的

市内唯一の火葬場である京都市中央斎場は、人生の最後の儀式ともいうべき火葬業務を提供している。しかし、供用開始後既に 30 年が経過し、施設の経年劣化が進んでいる。また、将来の火葬需要予測によると、平成 40 年代にピークを迎えると予想されており、現行の処理能力（現施設における現在の運用）では、十分な火葬業務が維持できなくなることが懸念されている。しかしながら、現施設の建替えや新築は、候補地や資金面からも困難であることから、現施設の有効活用を前提に次項目を主眼に、中央斎場のあり方を研究・検討することを目的とし、その成果を京都市に対し提言する。

- ① 運営（直営とそれ以外の検証）方法について
- ② 体制（ロストル方式の火葬技術の伝承）について
- ③ サービス向上の施策（レストランの設置や予約制）について
- ④ その他

なお、現施設の火葬業務の流れの中でボトルネックとなっている収骨室の増設及び施設の定期・緊急補修等のハード面については、京都市で検討を行う。

## 2 全体スケジュール

